

生活習慣病にさようなら（高血圧編）

配役

春子（

）

夏子（

）

秋子（

）

町内会の帰り道

（ワイワイ喋りながら三人登場）

春子「夏ちゃん、久しぶり。  
元気だった？」

夏子「うん元気は元気だけど、お義母さんが入院したのよ。」

秋子「ええ〜！あの元気なお義母さんが入院したの？」

健康のために、いつも歩いてきたのに〜。」

春子「そうそう、〇〇公園を元気に散歩していたよね。」

夏子「そうなの。足腰が弱ったらおしまいだからと行って、暑くても、寒くても、

雨が降っても、雪が降っても、毎日、毎日よく歩いていただけね〜。」

秋子「あんなに元気なお義母さんが、何で入院することになったの？」

夏子「それが・・・突然だったの。朝起きたら、ろれつが回らなくなっっっっっ」

あわてて病院に連れて行ったら、そのまま入院だったのよ。」

「後から思えば、最近、ご飯食べながら眠ったり、持っていた茶碗を落としたり

何か変だったのよね。」

春子「それは、大変だったねえ〜。脳卒中かなあ？」

夏子「そうなのよ。脳卒中だったの。前から血圧が高いじゃないかなあと思っていたんだ

はじ・・・」

私は10月10日毎年ただただ10月10日離婚診断や嫁いびりをする。あんなに

夏子「毎年嫁いびりをする。あんなに

秋子「毎年健康診断や嫁いびりをする。あんなに

「本人がいろいろ言はなからうと自分で縛るのって検査受ければよかったのかなあ。

夏子「私も気がなっていたけど。元氣だったからほっておいたのよねえ。」

「だから、旦那が高くて薬をたくさん飲んでたのよ。元氣だったからほっておいたのよねえ。」

「だから、旦那が高くて薬をたくさん飲んでたのよ。元氣だったからほっておいたのよねえ。」

春子「うちの義母も、漬物が好きで、たぐったるのよねえ。」

「でも、漬物は塩が多いから、気を付けないとイケないよね、食べ過ぎると血圧上がるのよ。」

〇〇町の大根や白菜は美味しいからねえ。漬物にしたら最高！

秋子「そう。なかなか言えないよねえ。」

「かけたらいけないとはなかなか言えないわね。」

「味濃いものが好きで、私の味じゃあ薄いのか、何でもかんでも醤油をかけるのよ。身体に悪いと思ってる。」

「味濃いものが好きで、私の味じゃあ薄いのか、何でもかんでも醤油をかけるのよ。身体に悪いと思ってる。」

「これをおかずにご飯を食べるんだからうらやま。」

漬物が好きで、一切わい切わい切なごちねえ。」

『病院に行こうか』『いいよ、私も悪くはないから行か。』

『病院に行かなくていいよ。』



退院してほしかった。

言っちゃいご。

何となく、病院も退院してほしいみたいと言っているし・・・。」

そびな

わびに

帰れんてしょ。

春子「退院といっても、そんな状態じゃ家に連れて帰れないでしょう!」

なごめ

言ってな。

秋子「それは、夏ちゃん一人じゃ大変だわ。手伝えることがあったら遠慮なく言って!」

あつた

したらよかか。

「介護保険の事もあるから、役場の福祉課か地域包括支援センターに相談してみた

らぶらぶ。」

じゃとね

相談してみよう。

夏子「そうね、ありがとう。相談してみるわ。」

なかつたけな。

春子「そういえば、今日じゃなかったかなあ?〇〇集会所で『高血圧予防』の話がある

来たら良かった?

回覧板が来てなかった?」

よか機会じゃって

行っが。

あたいが、

行っが。

秋子「そうそう、いい機会だからみんなで聞きに行こう。私が迎えに行くから。」

夏子「ありがとう。またあとで・・・。」

春子「あとで・・・。」

(三人帰って行く)